

平成28年12月期

第2四半期決算説明会



平成28年8月29日
大倉工業株式会社

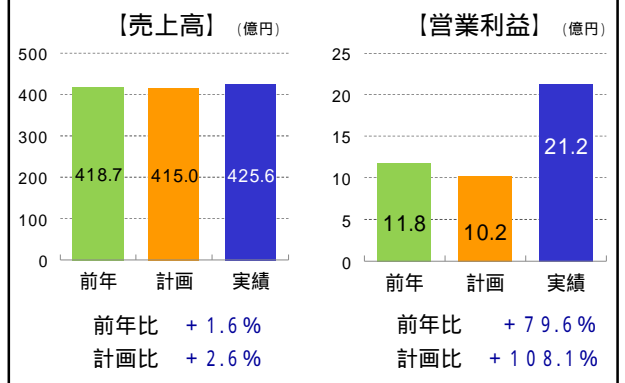
目次

1. 第2四半期決算の概要

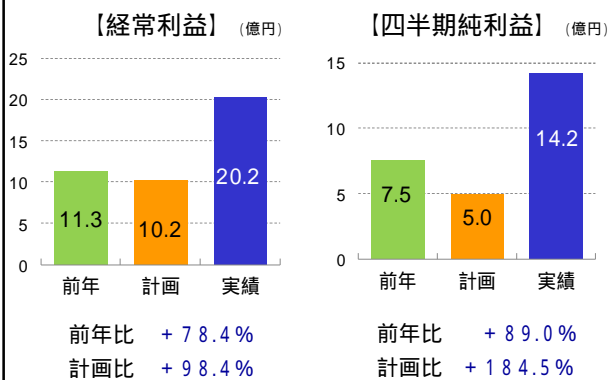
2. 通期の業績予想

1. 第2四半期決算の概要

第2四半期連結累計期間



第2四半期連結累計期間



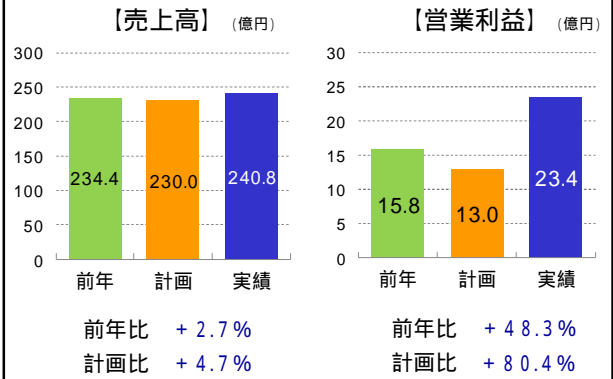
第2四半期連結累計期間

	H27上期	H28計画	H28上期	前年比	計画比
売上高	418.7	415.0	425.6	+1.6%	+2.6%
営業利益	11.8	10.2	21.2	+79.6%	+108.1%
経常利益	11.3	10.2	20.2	+78.4%	+98.4%
四半期純利益	7.5	5.0	14.2	+89.0%	+184.5%

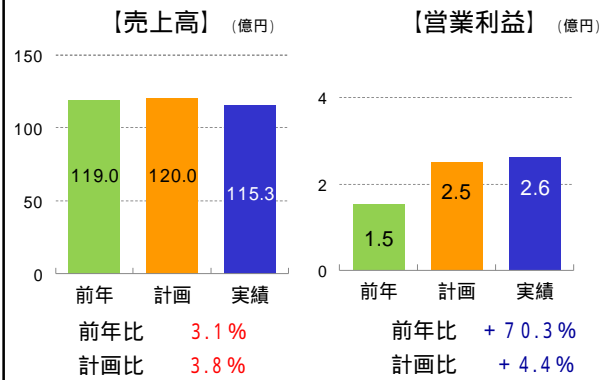
売上高、営業・経常・当期利益で
前年・計画ともに上回る。

セグメント別の概要

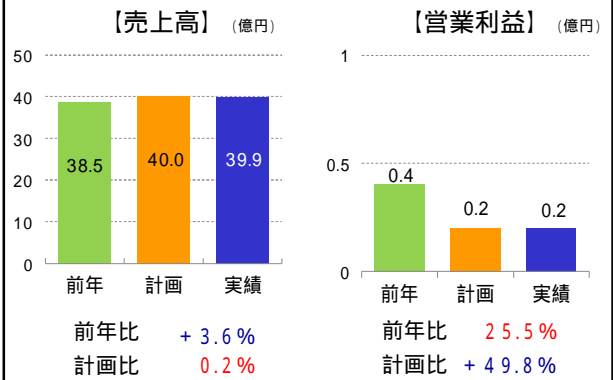
合成樹脂事業セグメント 第2四半期連結累計期間



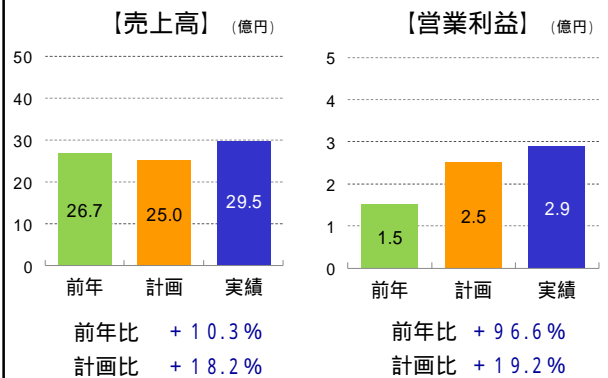
新規材料事業セグメント 第2四半期連結累計期間



建材事業セグメント 第2四半期連結累計期間



その他セグメント 第2四半期連結累計期間



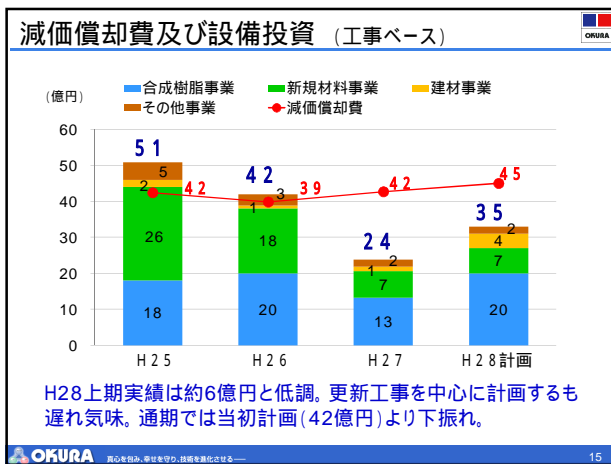
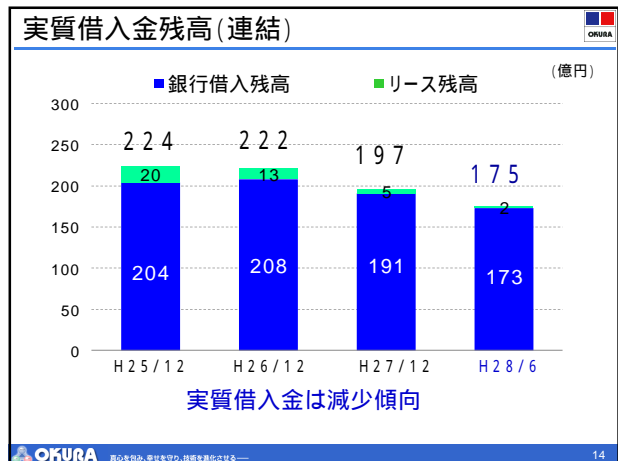
キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	H27上期	H28上期
現金及び現金同等物期首残高	67.3	73.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	23.3	32.5
投資活動によるキャッシュ・フロー	15.3	9.1
財務活動によるキャッシュ・フロー	3.7	25.8
現金及び現金同等物期末残高	71.6	70.6

拡販と原料値下がり等により、営業CFは増加
設備投資の進捗遅れにより、投資CFは減少



2. 通期の業績予想

通期業績予想

マクロ見通し
新興国・欧州経済と急激な円高・株安の影響により、景気は先行き不透明な状況

売上高
新規材料でスマホ市場の成長鈍化により数量が伸び悩むため、全体で10億円の不振

営業利益
合成の売価下落や原料価格上昇等の懸念もあり、通期の増益率は上期より低下

特別損益
土地の売却益があるものの構造改革に伴う除却損等を検討中

通期業績予想

(億円)

	前期実績	H28計画 (2月公表)	H28予想 (7月修正)
売上高	859	855	845
営業利益	23.5	24.0	31.5
経常利益	23.2	24.0	30.0
当期純利益	11.9	12.5	20.0

通期業績予想 売上高 (億円)

	前期実績	H28計画 (2月公表)	H28予想 (7月修正)
合成樹脂事業	482	475	480
新規材料事業	245	245	230
建材事業	79	80	80
その他	53	55	55
合計	859	855	845

OKURA 19

通期業績予想 営業利益 (億円)

	前期実績	H28計画 (2月公表)	H28予想 (7月修正)
合成樹脂事業	33.8	28.0	38.0
新規材料事業	0.9	6.0	5.0
建材事業	0.2	0.5	0.5
その他	4.0	5.0	5.5
調整額	15.6	15.5	17.5
合計	23.5	24.0	31.5

OKURA 20

セグメント別の課題認識

OKURA 21

合成樹脂事業

選択と集中による事業領域の拡大

重点課題

BU再編(6グループ制 4BU制)
シュリンクフィルムの最新設備導入(16億円)
関東地区での製造・営業強化

上期:BU再編による拡販で数量増(+4.7%)
下期:拡販と売価維持に注力

OKURA 22

新規材料事業

**利益が出る事業に立て直し
成長分野での要求に対応**

重点課題

G棟の安定稼働と生産性向上
新樹脂原料での光学フィルム

上期:G棟は計画遅れながらも生産性は向上
下期:安定生産を最優先

OKURA 23

建材事業

高付加価値製品の拡充

重点課題

PBの生産・販売の最適化
フロアPB拡販、構造用ボード事業の本格化
ラミネート技術の進化と製品開発

上期:フロアPBは順調、構造用ボードで計画遅れ
下期:稼働率向上による生産量の確保

OKURA 24

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。